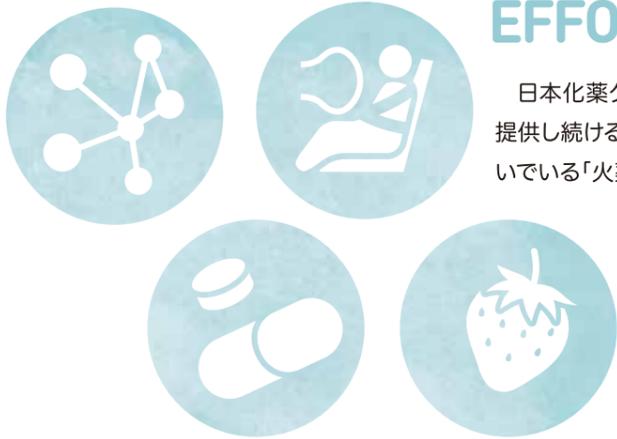


## EFFORTS OF BUSINESS ACTIVITIES

日本化薬グループは、KAYAKU spiritを実現し世のため人のために「最良の製品」を提供し続けることが企業の存在価値であると考えています。私たちは創業時から受け継いでいる「火薬」「染料」「医薬」の基盤技術に加え「樹脂」「触媒」などの独自のファインケミカル技術をもっています。これらの技術を常に進化・融合させながら機能化学品事業・医薬事業・セイフティシステムズ事業・アグロ事業の4つの事業を展開し社会に貢献する製品を提供しています。

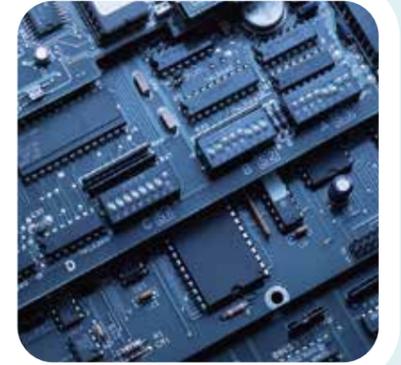


常に時代のニーズに応えた新製品を生み出していくため、研究開発部門は事業部門と一体となった組織で市場ニーズを的確に捉えた製品開発をしています(縦系の強化)。また、組織を超えた社内外の知的資産の融合や社外とのオープンイノベーションにより新事業を創出する取り組みも積極的に進めています(横系の明確化)。

## 活動紹介

### 機能化学品事業

来るべき将来は「超スマート社会」になるといわれています。さまざまな「モノ(物)」がインターネットに接続され、快適に暮らすことができる社会になります。それに伴う電子端末に搭載される半導体デバイスの小型化、高性能化、画像表示パネルの高精細化が急速に進んでいます。また、省エネルギー・省資源の要請はますます高まっています。機能化学品事業では、樹脂や色素、触媒で培った技術で情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある製品を提供し「超スマート社会」の実現に貢献します。



### 医薬事業



医薬事業では、ナノテクノロジー技術を用いた抗がん薬内包高分子ミセルに注力し、加えてバイオシミラーおよびジェネリック医薬品を重点領域として研究開発を進めています。2018年3月に「フィルグラスチムBS」「インフリキシマブBS」に続く3製剤目のバイオシミラー「トラスツマブBS」の製造販売承認を取得し、発売に向けて準備しています。

得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により、医療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献していきます。

### セイフティシステムズ事業

世界の自動車生産台数は、中国に次ぐ東南アジアなどの新興国で高い成長が予想されており、これまで以上に自動車安全部品の搭載率が飛躍的に高まると予想されます。セイフティシステムズ事業では、火薬技術を我々のコアコンピタンスとして研究を続け自動車安全部品を製造販売しています。また、市場に製品を送り出すまでのさまざまなプロセスを開発段階から各部門が連携し、開発から製造・販売までのプロセスを同時に進めることで、素早く市場に製品を提供することを実現しています。今後は、これまで以上に海外拠点間にも連携を広げることで、グローバル製品価値を高め、社会に貢献していきます。



### アグロ事業



世界的な人口増加による食糧需給問題や国内の食糧自給率問題や病害虫による農産物被害が増加するなど農業を取り巻く環境が年々厳しくなる中、安全・安心な農産物を安定的に生産し、市場に供給することが必要とされています。

アグロ事業では独自の目線から保有技術を工夫・活用しながら、さまざまな農薬を製品として提供しています。化学農薬のみに頼らない総合的病害虫管理に適した気門封鎖剤「フーモン®」や土壌中の病原菌や害虫の防除に有効なクロルピクリン剤を刺激性が低く施用ができるように改良した「クロピクフロー®」などを市場に提供し好評を得ています。今後もニーズに合った技術や資材を研究開発し、提供し続けることで農業に貢献していきます。